youmu perch.

Class by class, skill by skill

Canvas LMS を、
日本の大学の運用に合わせる。

youmu perch. は、Canvas LMS を日本の大学で使いこなすための製品シリーズです。教材の移行から、日本語で学べる講座、学務システムとの連携、学修データの活用、そして停止時の備えまで。止まり木（perch）のように、Canvas と大学の現場のあいだに立ちます。

s	g	d	a	n	p	c	l	g
perchshift. 教材移行	**perchguide.** 日本語マニュアル	**perchdojo.** 日本語の講座	**perchadmin.** SIS 連携	**perchnote.** 注釈・読解	**perchpeer.** 相互評価	**perchcoach.** AI 英会話	**perchlenz.** 学修データ	**perchglide.** 停止時の備え

LINEUP

導入から日々の運用、もしもの日まで。5つの場面を、9つの製品で支えます。

Canvas LMS はグローバル基準で設計された、シンプルで拡張性の高い LMS です。日本の大学の学務や授業の慣習とのあいだに生まれる「すき間」を、場面ごとの製品で埋めていきます。

移行する
他の LMS から Canvas へ

perchshift.
他の LMS の教材を Canvas LMS へ移行します。

perchguide.
教職員・学生向けの日本語マニュアル。

学ぶ・身につける
Canvas の中で、日本語で

perchdojo.
Canvas の中に置く日本語の講座群。研修で終わらせず、毎年使える仕組みにします。
→ 3ページ

つなぐ・管理する
学務システムと Canvas

perchadmin.
SIS のデータを差分で自動連携し、日本の大学に必要な管理機能を補います。
→ 4ページ

学びを深める
授業と学修データ

perchnote.
教材に書き込みながら読み、読んだ過程を成績に返します。
→ 6ページ

perchpeer.
学生どうしの相互評価。評価する側の正確さも測ります。
→ 7ページ

perchcoach.
AI と英語で会話する練習課題。詰まったら日本語で聞けます。

perchlenz.
学修データを集め、ダッシュボードやフォームとして形にします。
→ 5ページ

止まっても続ける
クラウド停止への備え

perchglide.
Canvas に接続できない日も、当日の教材を学内から取り出せます。
→ 8ページ

すべての製品が、youmu perch. の共通基盤の上で動きます

- LTI 1.3 で、Canvas LMS の中から起動
- 必要な製品から選び、あとから追加できる
- 日本の大学の運用を前提にした日本語の画面
- 導入の相談から運用まで、ヨウムが国内で対応

perchdojo. Canvas の中の日本語講座

perchadmin. SIS 連携と管理機能

perchlenz. 学修データの可視化

perchnote. 注釈・ソーシャル読解

perchpeer. 相互評価

perchglide. 停止時の教材取り出し

本冊子では、上の6製品を詳しくご紹介します。その他の製品は個別にご案内します。

LEARN INSIDE CANVAS

研修は、その日で終わります。講座は、毎年使えます。

導入のときに研修をしても、残るのはその日にいた人の記憶だけです。年度が替われば新しい先生が着任し、担当者が異動すれば知識ごと入れ替わります。perchdojo. は、学ぶ場所そのものを Canvas の中に建てました。Canvas LMS と EchoVideo を国内に配っているヨウムだからつくれた、日本語の講座群です。

51
講座。すべて提供中です（2026 年 11 月現在）

285
章ごとの解説動画。各章のはじめに置いています

9
分野。立場と道具ごとに分かれています

置くだけで始められる

大学の Canvas にコースとして取り込むだけ。接続作業も権限設定も要りません。

あとから来た人に効く

新任の先生も、途中で担当になった職員も、いつでも同じ内容を同じ順で受けられます。

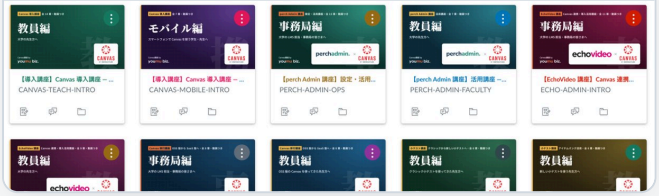
理解度が数字で残る

章ごとに確認クイズ、最後に修了テスト。どこまで伝わったかを評定表で確かめられます。

古くならない

Canvas はおよそ3週間ごとに新しくなります。画面が変われば手順と画面図を直し、新機能の講座を足します。

Canvas ／ 講座の一覧



コースとして置ける — 大学の Canvas にそのまま取り込めます。事務局編・教員編・情報システム編・学生編に分かれています。

Canvas ／ 講座の章立て



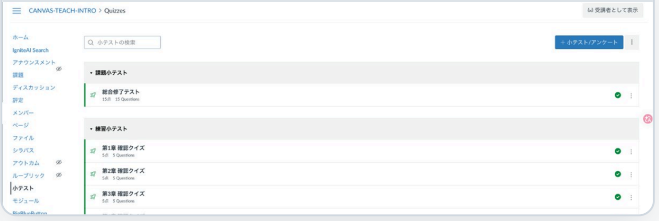
章立てはモジュール機能 — 上から順に進み、前の章を終えないと次へ進めない設定にしてあります。

Canvas ／ 本文のページ



本文は手順と画面図 — 番号で並べ、実際の画面を添えています。読みながら、そのまま手を動かせます。

Canvas ／ 確認クイズ



やりっぱなしにしない — 章ごとに確認クイズ、最後に修了テスト。Canvas の小テスト機能をそのまま使います。

9つの分野、51 講座

3	導入	はじめの一歩	8	管理	事務局・情報システム	4	活用	日々の運用
5	採点・小テスト	評定表まわり	6	授業づくり	教員向け	6	EchoVideo	動画の運用
10	移行	manaba・Panopto など	7	perch	youmu perch. の各製品	2	学生向け	受講ガイド

perchdojo. は LTI 1.3 のアプリではありません。ほかの youmu perch. 製品のように Canvas に横付けするツールではなく、Canvas のコースとして配る学習コンテンツです。乗り換えの講座（manaba、Panopto、Mediasite、Canvas 自前運用版から）も先に用意しているので、前の道具とのちがいを対応表で押さえてから新しい画面に入れます。

CONNECT & MANAGE

学務システムと Canvas LMS のあいだを、自動でつなぐ。

Canvas LMS のシンプルなデータ構造は、世界中で使える汎用性の裏返しです。大学ごとに異なる SIS の形式、教室ごとの履修管理、教員の異動や復帰。日本の大学で手作業になりがちな運用を、2つのエンジンで引き受けます。

Sync Service

データ連携エンジン

SIS のユーザ・科目・履修データを、大学独自の形式のまま受け取り、変更分だけを Canvas LMS へ流し込みます。

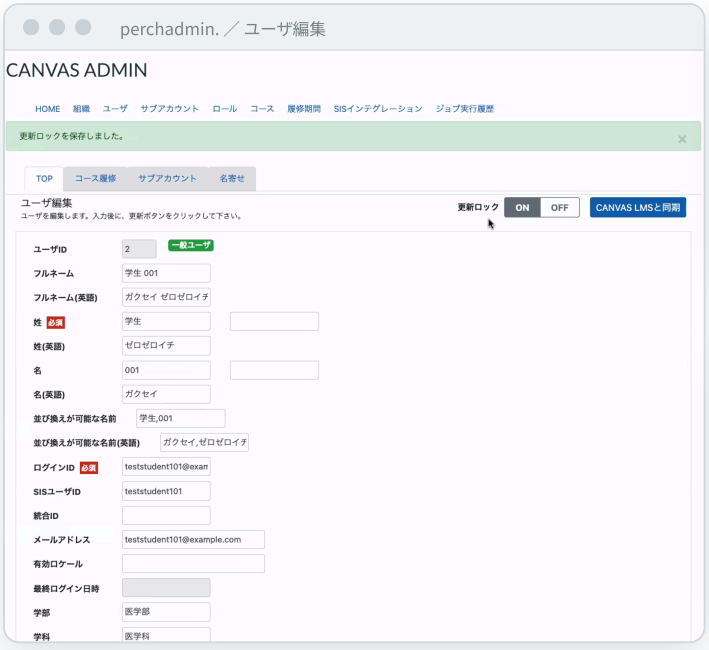
- 独自フォーマット
- 差分抽出
- 実行タイミング指定
- ブループリント自動紐付け

Functions Plus

機能拡張エンジン

Canvas LMS 単独では足りない、日本の大学に固有の管理機能を補います。

- 独自項目（Custom Fields）
- 更新の一時遮断（Emergency Override）
- 名寄せ（Identity Master）



ユーザ編集 — 学部・学科・入学年度などの独自項目を追加。「更新ロック」で SIS からの上書きを一時的に止められます。



SIS 連携の登録 — 取り込むデータの種類、実行日時や曜日を指定。



名寄せ — 退職や異動のあと新しい ID で戻った教員を、過去の ID と統合。以前の教材にそのままアクセスできます。

項目	Canvas LMS 単独	perchadmin. を使う場合
データ連携	Canvas 指定の CSV 形式に合わせる	**大学独自の SIS 形式をそのまま受け取る**
処理	全件を読み込む	**差分だけを連携し、短時間で終わる**
科目管理	教室ごとに手作業で登録	**ブループリントへ自動で紐付け、履修者は教室ごとに分けて登録**
教員の ID	復帰した教員は新しい ID になり、過去の教材と分断	**名寄せで統合し、過去の教材へのアクセスを復元**
緊急時の修正	次の同期で SIS のデータに上書きされる	**更新ロックで指定期間だけ上書きを止める**

SEE THE LEARNING

学修データを、自分たちの手で形にする。

さまざまなデータソースから必要なデータを取り出し、グラフやウィジェットにして、学生のダッシュボードや入力フォームに配置します。大学がほしい見え方を、大学自身で作れます。



学生

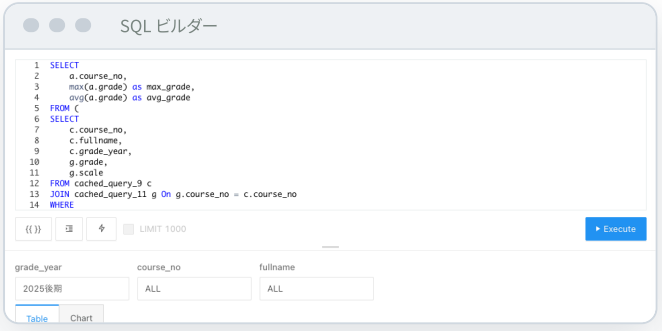
ログインすると、自分に必要な情報がそろう

トップページのダッシュボードに、カレンダーや時間割、学修成果のグラフ、TODO などのウィジェットが並びます。配布された入力フォームに記入し、提出先の教員を選んで提出できます。

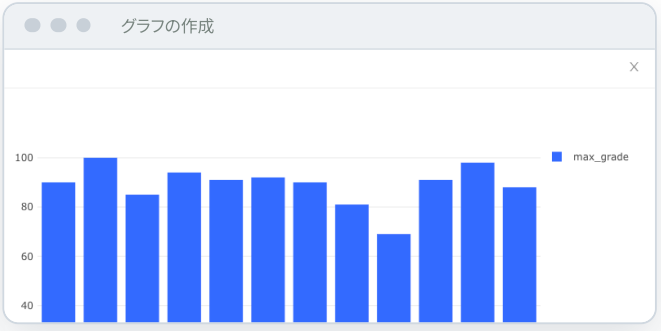
運営者の「創る自由」と、利用者の「使う喜び」を、高い次元で両立する。

perchlenz. の設計の考え方

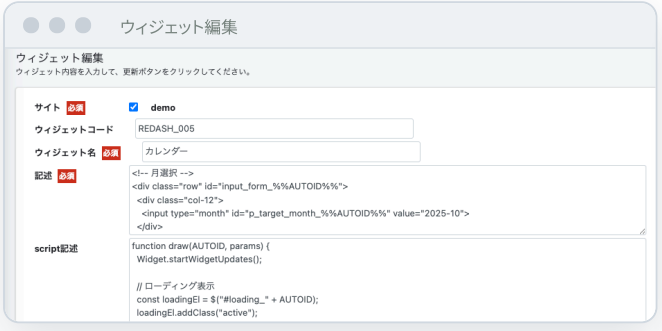
教員・運営者 4つの手順で作る



1 データを集める — データソースを登録し、SQL でクエリを作成。複数のデータソースをまたいだ集計もできます。



2 グラフにする — クエリの結果を、棒グラフなどに設定するだけで可視化。



3 ウィジェットにする — HTML・JavaScript・CSS で、表示を自由に作り込めます。



4 並べて配布する — 入力部品や表示部品をダッシュボード・フォームにドラッグ&ドロップで配置し、本人記入・他者記入を設定して配布。

READ & ANNOTATE

読む教材に、書き込みながら読ませる。

PDF の余白に、学生が問いやメモを書き込みます。書き込みは本文のその場所に結びつき、ほかの学生が返信できます。そして読んだ過程そのものを点数にして、Canvas LMS の成績表へ返します。学生から見れば、ふつうの課題です。別のサービスにログインし直す必要はありません。



学生の画面 — 本文の「その行」に書き込みが紐づき、そこに返信が集まる。縦書き・ルビにも対応。

日本語で、最初から動く

縦書き・ルビ・スキャン PDF に対応。言語に依存しない指標で組み立てているため、英語圏向け製品のような言語の制約がありません。

点数の理由を一文で言える

「文書を10区画に割って、何区画に書き込んだか」のように、学生に説明できる指標だけを採点に使います。

満点への道がひとつではない

よく読んで丁寧に書く学生と、議論を動かす学生が、別々の経路で満点に届きます。投稿を増やすだけでは有利になりません。

導入は画面操作2回

開発者キーに登録用 URL を貼り、表示された Client ID でアプリを追加するだけ。鍵やエンドポイントの手作業交換はありません。



学生にも内訳が見える — 「なぜこの点か」を説明できる形で提示します。



教員の画面 — クラス全体を見て、そのまま Canvas の評定表へ書き戻します。

1. 情報システム部門が Canvas に登録（最初の一度だけ）
2. 教員が課題を作り、読ませる PDF を選ぶ
3. 学生が書き込み、たがいの書き込みに返信する
4. 教員が点数を評定表へ書き戻す

PEER REVIEW

学生どうしで評価させて、その評価の質まで測る。

相互評価に必ず返ってくる反論は「学生に成績はつけられない」です。perchpeer. はこれに、保証ではなく仕組みで答えます。評価する側の正確さを測り、正確な評価者の点ほど重く数えます。甘い評価も辛い評価も、自動的に効き目が下がります。採点に AI は使いません。点数は数字の並びだけから決まり、学生に一文で説明できます。

評価の重みが自動で変わる

同じ提出物への評価の中央値と、満点の10%以内なら重みは1。外れるほど10%ごとに0.2ずつ下がり、最低0.25。

点数の内訳を開示する

合意点50%、評価の正確さ20%、評価の有用性15%、参加15%。学生の画面にも内訳がそのまま出ます。

書かせて終わりにしない

コメントは10字以上が必須。評価を受けた側が有用性を1〜5で返すため、投げやりな評価は次に響きます。

導入は登録用 URL を貼るだけ

Dynamic Registration に対応。Canvas・Blackboard・D2L・Moodle に LTI 1.3 で入ります。

学生 ／ 相互評価の画面



学生が評価する — 観点ごとに 0〜4 を選び、10 字以上のコメントを書く。提出者は匿名。

学生 ／ 結果と根拠



点数の根拠が並ぶ — 合意点・正確さ・有用性・参加の達成度を、そのまま日本語で表示。

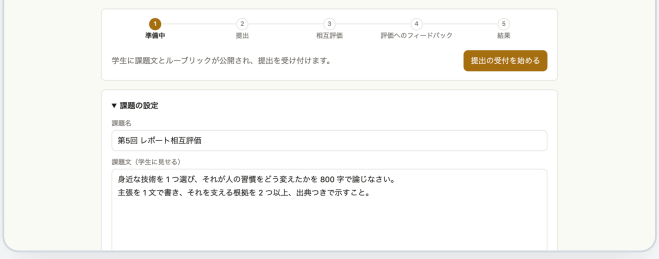
段階	学生	教員
準備中	—	課題文・ルーブリック・評価人数を決める（既定のルーブリックあり）
提出	本文を書く／PDF を添付。期間中は上書き可	提出状況を見る
相互評価	割り当てられた提出物を匿名で採点し、コメントを書く	締め切ると、提出者どうしで割当が確定する
フィードバック	受けた評価を読み、有用性を 1〜5 で返す	—
結果	点数と根拠を読む	実名つきの詳細を見て、成績表へ書き戻す

教員 ／ 進捗と点数の一覧



教員の一覧 — 誰が評価を終えていないかが一目で分かる。実名つきの詳細から、成績表へ書き戻す。

教員 ／ 課題とルーブリックの設定



準備は3つ決めるだけ — 課題文、ルーブリック、ひとり何件評価するか。既定のルーブリックがあります。

KEEP CLASSES GOING

Canvas が止まった日も、授業は着陸できる。

クラウドサービスは高い可用性で運用されていますが、停止を完全になくすことはできません。perchglide. は、前夜のうちに当日の教材を学内に用意しておき、Canvas に接続できない日でも、先生が自分で教材を取り出せるようにします。

perchglide.

0.1%未満の確率にも備える

ログインも保管も Canvas とは別。停止中でも、自分の担当科目の当日分だけが並び、ZIP でダウンロードすればネットワークがなくても開けます。



毎晩

次の2授業日分を用意

時間割と学年暦から開講科目を特定し、その週の教材を科目ごとにまとめます。

毎朝

学内に保管し、点検

新しい教材がそろってから切り替え。点検結果は正常でも異常でも必ず届きます。

停止時

先生が自分で取り出す

ログインして、その日の担当科目をダウンロード。操作は3ステップです。

扱うもの

その回のページ、配布ファイル、当日締切の課題の説明、直近7日のお知らせ、シラバス

扱わないもの

課題の提出、成績、小テスト・試験（設問は保管しません）、動画、ディスカッション、当日朝の差し替え



- ✓ **いつ時点の教材かが分かる**
  画面の上部に取得した日時を表示。前夜以降の差し替えがないことを、先生も学生も確認できます。
- ✓ **ネットワークがなくても開ける**
  ZIP を展開して index.html を開くだけ。教室のパソコンやプロジェクターの端末へ持ち込めます。
- ✓ **見せるのは自分の担当科目だけ**
  全科目を見られる権限は作りません。小テストの設問も保管しません。

「落ちない」ではなく「落ちても着陸できる」。停止中のすべてを肩代わりするのではなく、その日の授業を実施できることに役割を絞っています。perchglide. には個別の製品案内もございます。

GETTING STARTED

大学の状況に合わせて、組み合わせる。

すべてを一度に導入する必要はありません。いまの課題に合う製品から始めて、運用に合わせて広げていけます。

Canvas LMS を新しく導入
他の LMS からの乗り換え

perchshift. perchadmin. perchguide. perchdojo.

教材を移し、学務システムとの連携を最初から自動化。教職員向けの日本語マニュアルと、Canvas の中で受けられる講座で、立ち上げ期の問い合わせを抑えます。

OSS 版から SaaS へ移行
自前運用からクラウドへ

perchadmin. perchglide. perchdojo.

SaaS に移ると、止まったときに学内で手を出せなくなります。連携の仕組みを整えるのと同時に、停止の日の備えも用意しておけます。自前運用版からの移行講座で、変わる点だけを先に押さえられます。

次は、学びの質を高めたい
Canvas LMS を活用中

perchnote. perchpeer. perchcoach. perchlenz.

読む・評価し合う・英語で話す授業を支え、そこで生まれる学修データを、大学自身がダッシュボードとして形にします。

01
ご相談

いまの運用、学務システム、Canvas の契約形態をうかがい、合う製品をご提案します。

02
検証環境で試す

ヨウムの検証環境で、実際の画面と動きをご確認いただけます。

03
導入・運用

設定、連携、教職員向けのご案内まで、国内のチームが伴走します。

ご相談の前に、分かる範囲でお知らせください

- ☐ **Canvas LMS の利用形態**
  SaaS か OSS 版か、移行の予定
- ☐ **学務システム（SIS）**
  製品名と、データを出力できる形式
- ☐ **教職員・学生のログイン**
  学内の認証基盤（Shibboleth、Entra ID など）
- ☐ **規模**
  学生数と、1学期の開講科目数

製品のご相談・デモのご依頼

製品ごとの詳しい資料、デモ、お見積りをご用意しています。
お気軽にお問い合わせください。

youmu biz.
Ring by ring, skill by skill

ヨウム株式会社
youmu.biz

Canvas および Canvas LMS は Instructure, Inc. の商標です。youmu perch. シリーズはヨウム株式会社の製品であり、Instructure, Inc. が提供・保証するものではありません。掲載の画面は試験用のデータによるもので、一部を加工しています。仕様は予告なく変更される場合があります。